

第6回虹ヶ浜海岸くず撤去作業

生態系被害防止外来種も駆除

シナダレスズメガヤなど4種

つる性植物の葛(くず)と生態系被害防止外来種の撤去作業が16日、虹ヶ浜海岸で繰り広げられた。

市民環境ボランティアグループ『ひかりエコメイト』(数博昭代表)が主催し、浅江地区コミュニティ協議会、虹ヶ浜連合自治会、島田川の豊かな流域づくり連絡会議が共催した。

虹ヶ浜海岸の東部には繁殖力が強い、くず

が繁茂。海浜植物の成長を妨げたり、景観を損なっていることから、ひかりエコメイトが呼びかけ、平成30年から撤去作業がスタートした。今回で6回目。

約70人のボランティアが参加。伊藤幸平社長ら10人が参加した(株)伊藤(浅江六丁目)をはじめ、チーム・フア

ノス、星山商店、光環境整備、武田薬品工業光工場、光市議会議員有志(萬谷竹彦議員、

笹井琢議員、仲小路悦男議員、早稲田真弓議員、西村慎太郎議員)も加わった。

今回の特色は、虹ヶ浜海岸に侵入している環境省・生態系被害防止外来種(シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ)の駆除。特に、北アメリカ原産のシナダレスズメガヤが階段

護岸前の砂浜に繁茂していることから、スコ



子どもたちもシナダレスズメガヤを駆除



ボランティア参加した(株)伊藤の人たち

ップで根から掘り起こしてほしいと呼びかけと話す子もいた。

(浦)

参加した子どもたちは、ひかりエコメイトの会員が開いたミニ植物教室で学んだ。大きなセイタカアワダチソ